

区 分	生活と福祉科目	担当教員	藤 本 風 明			
授業科目	現代社会と福祉					授業形態
英 訳	Contemporary Society and Social Well-being					単独
配当年次	1 年次	前 期	必選別	選 択	単位数	2 単位
【授業の目的】 現代社会学科の生活と福祉コースに位置付ける科目で、少子高齢化や多様化やグローバル化という現代を生きる上で困難な状況下でも活用できる、情報や仕組みを社会福祉の面から、探究する。						
【授業の到達目標】 社会福祉が目指す社会は、「一人一人ひとりが人間として大切にされる社会」である。そのためには 1)人権を尊重する 2)一人ひとりが社会の中の対等な一員として尊重される 3)住民主体の社会である。この理念を身に付けていくことを目標とする。						
【授業の概要】 現代社会で多発する、困難な問題や情報を福祉的な視点から、情報の収集、整理、加工に努め、情報発信する。新聞などのマスコミ情報や、ビデオ、DVDなども活用し、現代社会を生きる上での、必要な制度や仕組みなどもわかりやすく情報提供する。						
【準備学習(予習・復習)】 予習⇒自分の身近なところやマスコミ情報などから、日々の社会問題を社会福祉との関係から、洞察する。 復習⇒授業で得た、情報や理論を自分の生活との関係から整理する。						
【授業計画】 第 1 回 社会福祉とは何かをやる(I) 第 2 回 社会福祉とは何かをやる(II) 第 3 回 社会福祉の価値や倫理を知る(I) 第 4 回 社会福祉の価値や倫理を知る(II) 第 5 回 社会福祉の形成過程を知る(I) 第 6 回 社会福祉の形成過程を知る(II) 第 7 回 現代の福祉問題を知る(少子高齢化問題など) 第 8 回 現代社会とノーマライゼーション理念を理解する 第 9 回 現代社会とソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)を理解する 第 10 回 社会福祉の視点からボランティア活動を理解する 第 11 回 社会福祉の各論(I) 第 12 回 社会福祉の各論(II) 第 13 回 社会福祉の各論(III) 第 14 回 社会福祉と社会保障と社会保険の関係を理解する 第 15 回 地域福祉とコミュニティソーシャルワークを理解する						
【テキスト】 教員が所有する社会福祉関係の著書や、テキストを利用する。毎回、教材を作成し配布する						
【参考書・参考資料等】 『社会福祉(保育ライブラリー保育・福祉を知る)』北大路書房(2018年) *担当教員執筆分 『障害福祉思想及び法律の形成と介護保険制度に関する考察』(2017年) 担当教員執筆						
【成績評価の方法等】 15回のうち、10回程度は、授業に関しての意見や理論化したものをレポート提出してもらおう。又、授業の中でグループワークを行い、プレゼンテーションを通じて授業の理解度を測り、総合的に評価する。						
【履修要件等】 担当教員は社会福祉士及び現場実践経験者。又、市民運動なども展開している。社会福祉的感覚を身に付けていくことは、社会人として大切なことである。ぜひ学んで欲しい。						

区 分	生活と福祉科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	現代社会とくらし					授業形態
英 訳	Lifestyle of Modern Society					単独
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の目的】 現代社会の歴史と現状、課題について概観し、現代社会におけるくらしの側面に関する知識とその問題解決と課題遂行の手法を修得する。						
【授業の到達目標】 現代社会の歴史と現状、課題について理解し、現代社会におけるくらしの側面に関する知識とその問題解決と課題遂行の手法を修得し、地域や組織において悩みや生活課題を抱える人びとへの支援、多様な人々との共生・協働の推進、地域社会が抱える問題と課題を分析し、問題の解決策や課題の遂行方策を提示できるようになる。						
【授業の概要】 現代社会の構造とシステムを説明し、そのもとでの生活と労働にわたる生活様式を分析し、人間の生活の側面の問題や課題について検討する。 授業はケース・スタディを交えながら、講義と教材(写真やビデオなど)の視聴、討議で構成する。						
【準備学習(予習・復習)】 事前に配付する資料に基づいて次回の授業内容を把握し、日常的に、現代社会とくらしに関するテレビのドキュメンタリーやニュースなどの番組を見たり、新聞や雑誌などを読み、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1回 現代社会とは 第 2回 働くこととくらすこと 第 3回 貧困化と富裕化 第 4回 資本主義社会の生活様式 第 5回 経済成長と生活の変化 第 6回 地方・農村の生活の変化 第 7回 都市的生活様式の展開 第 8回 高度経済成長期の生活問題－環境問題、過労死、受験競争、老後の不安など 第 9回 生活様式の転換 第 10回 生活様式の多様化 第 11回 今日の生活問題－リストラ、失業、長時間労働、年金破綻、暮らしの不安など 第 12回 人と人のつながり 第 13回 くらしを支える組織 第 14回 くらしを支えるしくみ 第 15回 くらしの主体形成と展開						
【テキスト】 使用しないが、資料を事前に提供する。						
【参考書・参考資料等】 授業で適宜紹介する。						
【成績評価の方法等】 各回の課題(レポート提出)(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【履修要件等】 とくにない。						

区 分	生活と福祉科目	担当教員	山田 陽子		
授業科目	家族とジェンダー				授業形態
英 訳	Family Sociology and Gender Studies				単独
配当年次	2 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 家族とジェンダーについて学び、自らの生きる社会について考える。					
【授業の到達目標】 家族や「男性・女性」に関する様々なテーマについて、社会学の観点から考えられるようになる。					
【授業の概要】 家族社会学やジェンダー論に関する様々なトピックを取り上げ、講義する。					
【準備学習(予習・復習)】 テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。					
【授業計画】 第 1 回 ジェンダーとセクシュアリティ 第 2 回 近代家族とジェンダー 第 3 回 恋愛 第 4 回 未婚・非婚 第 5 回 少子化 第 6 回 労働とジェンダー 第 7 回 ケアワークとジェンダー 第 8 回 教育とジェンダー 第 9 回 教育格差とジェンダー 第 10 回 貧困とジェンダー 第 11 回 政治参加とジェンダー 第 12 回 生殖技術の発達と妊娠・出産をめぐる女性の権利 第 13 回 「男らしさ」と「女らしさ」を演じること 第 14 回 クィアとトランジェンダー 第 15 回					
【テキスト】 千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣 (2013年)					
【参考書・参考資料等】 講義の中で適宜指示する。					
【成績評価の方法等】 講義期間中の課題の提出状況と (60%)、レポート (40%) によって評価を行う。					
【履修要件等】					

区 分	生活と福祉科目	担当教員	山田 陽子		
授業科目	社会福祉総論A				授業形態
英 訳	Introduction to Social Welfare A				単独
配当年次	2 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 様々な社会福祉の分野とソーシャルワークについて学び、自らの生きる社会について考える。					
【授業の到達目標】 児童福祉、高齢者福祉、貧困と生活保護制度、雇用と社会保障、ソーシャルワークの理論と方法について理解する。					
【授業の概要】 児童福祉、高齢者福祉、貧困と生活保護制度、雇用と社会保障、ソーシャルワークの理論と方法について講義する。					
【準備学習(予習・復習)】 テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。					
【授業計画】 第 1 回 ソーシャルワークの対象と方法 第 2 回 児童福祉① 第 3 回 児童福祉② 第 4 回 児童福祉③ 第 5 回 児童福祉④ 第 6 回 高齢者福祉① 第 7 回 高齢者福祉② 第 8 回 貧困と社会的排除① 第 9 回 貧困と社会的排除② 第 10 回 貧困と社会的排除③ 第 11 回 貧困と社会的排除④ 第 12 回 生活保護制度① 第 13 回 生活保護制度② 第 14 回 生活保護制度 第 15 回 全体のまとめ					
【テキスト】 講義の中で適宜指示する。					
【参考書・参考資料等】 杉山春『ルポ 虐待—大阪二児置き去り死事件』筑摩書房（2013年）					
【成績評価の方法等】 講義期間中の課題の提出状況と（60%）、期末レポート（40%）によって評価を行う。					
【履修要件等】					

区 分	生活と福祉科目	担当教員	山田 陽子		
授業科目	社会保障論				授業形態
英 訳	Social Security				単独
配当年次	2 年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の目的】 社会保障制度の意義と成立過程、仕組みや課題について学び、自らの生きる社会について考える。					
【授業の到達目標】 社会保障制度の意義について理解する。 医療保険、年金、介護保険、雇用保険、労働者災害補償保険の概要について理解する。					
【授業の概要】 主に日本の社会保障制度の意義と概要について講ずる。					
【準備学習(予習・復習)】 テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。					
【授業計画】 第 1 回 社会保障とは何か 第 2 回 医療保険① 第 3 回 医療保険② 第 4 回 医療保険③ 第 5 回 医療保険④ 第 6 回 医療保険⑤ 第 7 回 年金① 第 8 回 年金② 第 9 回 介護保険 第 10 回 雇用保険① 第 11 回 雇用保険② 第 12 回 雇用保険③ 第 13 回 労働者災害補償保険① 第 14 回 労働災害補償保険② 第 15 回 社会保障の意義と課題					
【テキスト】 棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ（第15版）』有斐閣, 2018年					
【参考書・参考資料等】 講義の中で適宜指示する。					
【成績評価の方法等】 講義期間中の課題の提出状況と（60%）、レポート（40%）によって評価を行う。					
【履修要件等】					

区 分	生活と福祉科目	担当教員	山田 陽子			
授業科目	社会福祉総論B				授業形態	
英 訳	Introduction to Social Welfare B				単独	
配当年次	2 年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の目的】 様々な社会福祉の分野とソーシャルワークについて学び、自らの生きる社会について考える。						
【授業の到達目標】 児童福祉、高齢者福祉、貧困と生活保護制度、雇用と社会保障、ソーシャルワークの理論と方法について理解する。						
【授業の概要】 児童福祉、高齢者福祉、貧困と生活保護制度、雇用と社会保障、ソーシャルワークの理論と方法について講義する。						
【準備学習(予習・復習)】 テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。						
【授業計画】 第 1 回 ソーシャルワークの方法論 第 2 回 雇用・労働問題① 第 3 回 雇用・労働問題② 第 4 回 雇用・労働問題③ 第 5 回 雇用・労働問題とソーシャルワーク① 第 6 回 雇用・労働問題とソーシャルワーク② 第 7 回 教育問題とソーシャルワーク 第 8 回 司法とソーシャルワーク 第 9 回 ソーシャルワークの倫理綱領 第 10 回 ソーシャルワークの原則① 第 11 回 ソーシャルワークの原則② 第 12 回 ソーシャルワークの原則③ 第 13 回 ソーシャルワークの原則④ 第 14 回 ソーシャルワークの原則⑤ 第 15 回 まとめ						
【テキスト】 講義の中で適宜指示する。						
【参考書・参考資料等】 岩田正美『社会的排除－参加の欠如、不確かな帰属』有斐閣（2008年）						
【成績評価の方法等】 講義期間中の課題の提出状況と出来（60％）と期末レポート（40％）によって評価を行う。						
【履修要件等】						

区 分	生活と福祉科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	格差社会論					授業形態
英 訳	Social Stratification Theory					単独
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 社会的な格差や不平等に関する社会学の理論や研究手法について学び、具体的なデータや事例から現状を把握する。						
【授業の到達目標】 ・ 社会階層論の主要な理論や階層分析の主要な技法を習得する。 ・ 敗戦後から現在に至る日本の社会階層の状況を把握する。 ・ 「貧困」について考えるための多様な視点を獲得する。						
【授業の概要】 社会階層論の主要な理論や分析手法を学び、社会的な格差や不平等の状況を把握するとともに、貧困をめぐる問題に焦点を当て、実態を把握するとともに「貧困」とそれがもたらすものについて考察する。						
【準備学習(予習・復習)】 配布資料などをもとに、前回の授業の内容をしっかりと復習して次の授業に臨むこと						
【授業計画】 第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 格差社会を考える視点 第 3回 階層・階級と社会移動 (1) 第 4回 階層・階級と社会移動 (2) 第 5回 教育と地位達成 (1) 第 6回 教育と地位達成 (2) 第 7回 階層と社会意識 第 8回 戦後日本の階層状況 (1) 第 9回 戦後日本の階層状況 (2) 第 10回 非正規雇用 第 11回 若者の貧困 第 12回 子どもの貧困 第 13回 女性の貧困 第 14回 貧困と社会的排除 第 15回 全体のまとめ						
【テキスト】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書・参考資料等】 平沢和司『格差の社会学入門』北海道大学出版会 西澤晃彦『貧困と社会』放送大学教育振興会						
【成績評価の方法等】 授業中のレポート (30%)、学期末のレポート (70%)						
【履修要件等】 特になし						

区 分	生活と福祉科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	働くための社会学					授業形態
英 訳	Sociology of Work					単独
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 これまでに学んだ社会学の理論や手法をベースとしつつ、産業社会学や労働社会学について学び、「労働」や「職業」について考察を深めることを目的とする。						
【授業の到達目標】 産業社会学や労働社会学の主要な理論を習得するとともに、多様な視角から「労働」や「職業」について考えることができる力を獲得する。						
【授業の概要】 産業社会学や労働社会学の理論や概念について講述するとともに、「労働」や「仕事」をめぐる諸問題について具体的に考察する。						
【準備学習(予習・復習)】 配布資料などをもとに、前回の授業の内容をしっかりと復習して次の授業に臨むこと						
【授業計画】 第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 労働と職業をめぐる諸思想 第 3回 雇用システムと賃金のしくみ 第 4回 キャリアと多様な働き方 第 5回 非典型雇用 第 6回 失業と転職 第 7回 性別職域分離 第 8回 技術革新と労働・職場の変化 第 9回 対人サービスにおける感情労働 第 10回 過労死・過労自殺 第 11回 グローバル化と労働 第 12回 労働者の権利と労働運動 (1) 第 13回 労働者の権利と労働運動 (2) 第 14回 新しい労働運動とコミュニティ・ユニオン 第 15回 全体のまとめ						
【テキスト】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書・参考資料等】 上林千恵子編『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房 小川慎一など『産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する』有斐閣						
【成績評価の方法等】 授業中のレポート (30%)、学期末のレポート (70%)						
【履修要件等】 特になし						

区 分	生活と福祉科目	担当教員	山田 陽子			
授業科目	生活と福祉の社会学					授業形態
英 訳	Sociology of Life and Wellbeing					単独
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の目的】 生活や福祉に関連する社会学の諸理論について学び、自らの生きる社会について考える。						
【授業の到達目標】 生活や福祉に関する社会学について理解する。						
【授業の概要】 生活や福祉に関する社会学について講義する。						
【準備学習(予習・復習)】 テキストの該当箇所を事前・事後に読み、毎回の講義への理解を深めること。						
【授業計画】 第 1回 家族と児童虐待① 第 2回 家族と児童虐待② 第 3回 保育所問題と子育て支援① 第 4回 保育所問題と子育て支援② 第 5回 未婚化、非婚化、少子化 第 6回 少子化と労働、社会保障 第 7回 ケアの社会化、感情労働① 第 8回 ケアの社会化、感情労働② 第 9回 精神と身体の医療化、生活の医療化① 第 10回 精神と身体の医療化、生活の医療化② 第 11回 精神と身体の医療化、生活の医療化③ 第 12回 社会的排除と社会的包摂① 第 13回 社会的排除と社会的包摂② 第 14回 社会関係資本 第 15回 まとめ						
【テキスト】 講義の中で適宜指示する。						
【参考書・参考資料等】 武川正吾・副田義也・庄司洋子・藤村正之編『シリーズ 福祉社会学』〈全四巻〉 東京大学出版会 (2013年)						
【成績評価の方法等】 講義期間中の課題の提出状況と (60%)、レポート (40%) によって評価を行う。						
【履修要件等】						